

## ★講演の集いアンケートより

2022年11月9日に行われました講演の集いについては建廃協NEWS91号でご報告いたしました。講演後にコロナ禍でのリスク回避で、質問を受け付けられませんでした。

アンケートに講演についての質問が何件か上がりました。環境省の方にお答えいただきましたので、Q&Aとしてご紹介します。



Q1：情報提供の窓口を知りたい。

A1:ご質問等ございましたら環境省リサイクル推進室(03-5501-3153)までご連絡ください。「プラスチック資源循環法の排出事業者の判断基準に関する問い合わせ」と言っていたければ担当にお繋ぎします。

Q2：多量排出事業者の目標設定を具体的にご説明いただきたい(数値目標・定量・定性)

A2：手引きの27ページから31ページに具体例を掲載しておりますのでこちらを参考にしてください。請負金額を原単位とする目標設定も可能です。

[https://plastic-circulation.env.go.jp/wp-content/themes/plastic/assets/pdf/tebiki\\_haisyutu\\_handan.pdf](https://plastic-circulation.env.go.jp/wp-content/themes/plastic/assets/pdf/tebiki_haisyutu_handan.pdf)

Q3：廃プラ新法に於いて「高炉還元剤」と「コークス炉原料」がケミカルリサイクルに含まれセメントキルンが除かれた理由は？油化、ガス化、ペレット化等を行う場合エネルギーは再生エネルギーが前提ですか？

A3：容器包装リサイクル法におけるリサイクル手法と合わせたものです。リサイクルに使用するエネルギーは再生可能エネルギーに限りません。

Q4：プラ新法の再資源化の考え方において、ケミカルリサイクルの油化、ガス化の後に熱利用した場合は熱回収との定義であったが、油化、ガス化したものを有価売却してその先で熱利用された場合も熱回収扱いとなるのか？

A4:有償か逆有償かに関わらず熱利用された場合には「熱回収」ということになります。

Q5：再資源化事業を行う場合のマニフェストの流れは、廃棄物と同じ流れとなるのでしょうか？異なる点があれば教えて下さい。

A5:再資源化事業の対象物が廃棄物であれば、廃棄物処理法に基づくマニフェストと同じ手続になります。

## ★自主管理システム更新パトロール特集

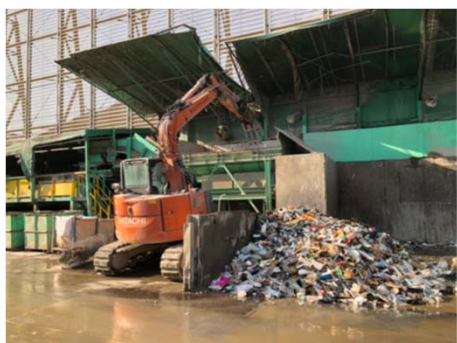
### 鈴健興業株式会社自主管理システム更新パトロール

2022年10月26日、鈴健興業(株)笛吹リサイクルプラントにて、自主管理システムと更新パトロールを日建連（4名）と合同で実施しました。公開している情報と伝票の内容に差異が無いことが確認出来ました。その後、施設説明を生産管理課長石川氏よりして頂きました。混合廃棄物、コンクリートから、木くずを取扱っており全て分別フルリサイクルを行っているとのこと。特に木くずのリサイクルに力を注いでいて、バイオマス燃料（チップ、たい肥）、ボイラー燃料、パルプ燃料となっているお話を伺いました。



### 株式会社エバーグリーンライン自主管理システム更新パトロール

2022年11月4日、(株)エバーグリーンライン中間処理施設にて、自主管理システムと更新パトロールを日建連（2名）と合同で実施しました。初めに取締役山口氏よりご挨拶をして頂きました。次に自主管理システムの公開している情報（3か月分）と伝票の内容に差異が無いことが確認出来ました。また伝票の記載もれ等もなく確認作業は滞りなく行われました。その後、場内パトロールを行いました。選別に力を注いでいて整粒機や比重差別機による高度な精選別を行い再資源化製品になるまで分別をしているお話を伺いました。手選別の工程では後ろになるほどキャリアのある従業員さんが細かく選別していることなど聞くことが出来ました。場内は整理整頓されていて安全確保に努めている印象が残りました。



## ★視察会特集

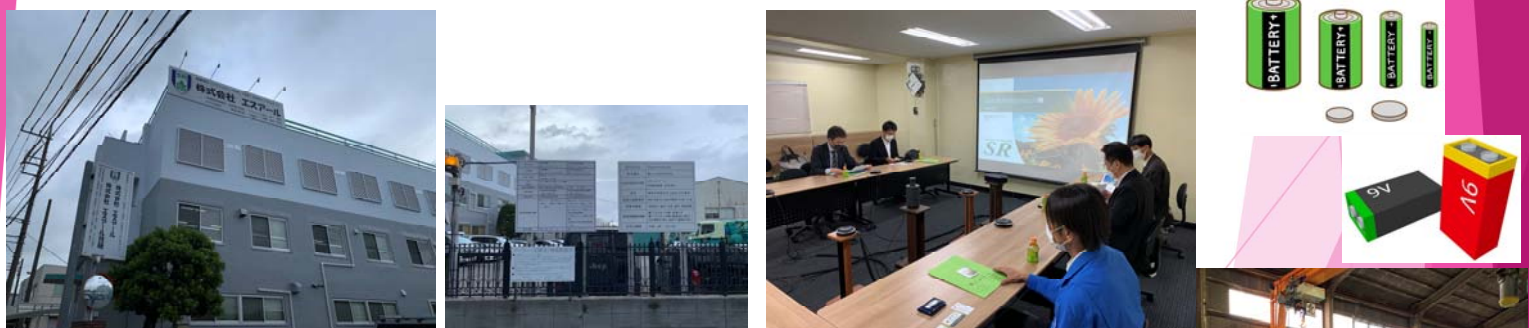
11月25日 株式会社グリーンアローズ関東

(株)グリーンアローズ関東は、神奈川県横須賀市に施設を構える廃石膏ボード専門の中間処理施設です。破碎した石膏ボードを紙と石膏に分離し、石膏粉は二水石膏として石膏ボード原料に。またロータリーキルンで乾燥させた無水石膏はセメント原料として出荷しています。現在はほぼ全量乾燥させ、無水石膏としてセメントメーカーに出荷しているとのことでした。無水石膏は高温で乾燥させる必要があるため、近年の燃料費等の高騰が堪えると胸の内をこぼされていました。



11月29日 株式会社エスアール

(株)エスアールは神奈川県厚木市で廃電池の選別を行っている中間処理施設です。電池はすべての種類を受け入れることが可能で、ボタン電池やリチウム電池などを種類ごとに分別してリサイクルしています。衝撃を加えると発火する電池ですが、ここでは放電処理を施してそれぞれのリサイクル先まで安全に運搬しています。私たちの生活に身近に存在している電池ですが、扱い方を間違えると非常に危険なものになるということも丁寧に教えていただきました。



## ★お知らせ

2023年2月22日に九段会館にて新春セミナーを開催いたします。詳細が決まり次第、年明にご案内を送ります。

